

産霊神社を美しく

西宮町長寿会

9月27日の朝、産霊神社境内は、老人クラブの西宮町長寿会の方たち20人が集まり、ほうきで落ち葉を集めています。町内の人々の憩いの場でもある鎮守の森の境内には、数多くの大木があり、この時期から盛んに落葉します。皆さんは40年以上前から、草刈りや落ち葉掃きなどの活動をされ、産霊神社の境内を美しく保っています。

ある女性は「元気なうちは掃除を続け、みんなで話したりして、親睦を深めています」と話されました。



産霊神社境内の落ち葉を掃く、西宮町長寿会の皆さん

毎月第四日曜日が清掃活動になっていますが、必要に応じて産霊神社の美化に努められています。

また、同じように町内の子ども会や中学生たちもそれぞれ清掃活動をしています。

カメラの眼

まちの出来事



謎の植物自生

ツチアケビ群生



ロープで保護された赤い実がたわわに実ったツチアケビ

笠松町円城寺の白髭神社の境内で、赤い実をつけた謎の植物が初めて発見されたのは、2年前の秋。関係者がいろいろと調べ、ツチアケビであることが判明しました。

去年も期待して見守っていましたが、自生しませんでした。今年は、赤いウインナーのような形をしたツチアケビが生育しているのを再発見し、地域の方たちを安堵させました。ツチアケビが育つには、日差し・土壌・菌床などの微妙な環境が必要で、発見された方は「貴重なツチアケビを大切に保護していきたい」と言われました。

ツチアケビは、樹林下に生えるラン科ツチアケビ属の葉緑素のない腐生植物でナラタケ菌と共生しています。葉を付けず赤色の茎を伸ばし、夏には蘭のような黄色の花が咲き、花後、多肉質の赤色の実を付けますが、異臭と苦味があり、食用にはなりません。

岐阜と笠松を結ぶ 鮎鮠ウオーク

120年を祝し、住民参加

笠松町と岐阜市の住民により結成された鮎鮠ウオーク実行委員会によるウオーキングイベントが、10月17日に開催されました。このイベントは、生誕120年を記念し、笠松町文化協会「鮎鮠街道プロジェクト」実行委員会が、岐阜市の御鮎街道沿線の各自治会連合会などに働きかけ実現しました。

スタート地点である岐阜市川原町を出発した鮎鮠は、ゴールの木曾川みなと公園石畳までの約9kmの道のりを、岐阜市と笠松町の住民により宿次しゆくじされました。

到着イベントでは、宰領役を務めた広江町長のあいさつの後、鮎雑炊が大勢の人たちに振る舞わ



岐阜からの鮎鮠荷を受け継ぐため口上を述べる宰領役の笠松町長

れました。

岐阜と笠松という点と点が結ばれ、線となったことで今後の地域活性化に繋がるものと期待されます。